



水稻生産情報



令和3年6月17日
大鰐地区営農係

現在の生育は草丈がやや短いものの、莖数・葉齢は平年並みに経過しております。
今後は分けつ数を確保するためにも今まで以上にこまめで適正な水管理を実施し莖数確保に努めましょう。
また、これから中干しに入っていきますが、有効莖数20本以下の圃場では中干しは見合わせ、分けつ数の確保に全力を尽くしましょう。

1. 苗の生育状況

調査地点		水稻調査（6月10日現在）		
		草丈 (cm)	莖数 (本)	葉齢 (葉)
碓ヶ関（まっしぐら）	本年	27.5	4.7	5.4
	平年	32.1	4.7	5.2
唐 牛（つがるロマン）	本年	21.5	4.4	5.2
	平年	28.5	4.6	4.9
森 山（青天の霹靂）	本年	26.7	5.0	4.9
	平年	31.5	5.1	4.8

○水田の地温を確認してみよう○

深水管理をしている水田に手を入れてみましょう。水は暖かいですが、土の中は冷たく地温が上がっていないことがわかります。
植物は地温が上がらないと根を張らないため、気温に関係なく深水管理を続けると根張りが悪く、色の薄い徒長気味の稲になってしまいます。

2. 水管理 → 色が上がってこない水田が見られています。気温に合わせた水管理を！

- 温暖な日（平均気温20℃以上）は2～3cm程度の浅水にし、分けつ確保に努めましょう。浅水にすることで日中の水温と地温が高くなり生育が促進されます。また、低温時（最低気温14℃以下）は4～5cmの深水管理を行い、稲を寒さから守りましょう。
- 近年、天候に関係なく深水管理をしている圃場が見られます。深水管理は気温の低い日には稲を保温する効果はありますが、天気の良い日に深水管理を行うと地温が上がらず、活着が遅れたり、分けつが増えない原因となってしまいますので、天候に応じた水管理を心掛けましょう！

3. 除草剤散布 → 近年雑草が残る水田が増えてきましたので、散布タイミングを逃さないように！

雑草の種類	薬剤名	使用時期	使用量（10a）	散布方法	青天の霹靂使用
ノビエ	クリンチャー1kg粒剤	ノビエ4葉期まで収穫30日前まで	1kg	湛水散布 (水深3～5cm)	○ (どちらか1回)
	クリンチャーEW ※展着剤を加用	ノビエ5葉期まで収穫30日前まで	1.5kg		
広葉	バサグラン粒剤	収穫60日前まで	3～4kg	落水散布	○ (どちらか1回)
	バサグラン液剤	収穫50日前まで	500～700ml		
ノビエ、広葉	ヒエクリーン バサグラン粒剤	ノビエ4葉期まで収穫60日前まで	3kg	ごく浅く 湛水散布	×
	クリンチャーバス ME液剤	ノビエ5葉期まで収穫50日前まで	1000ml (100倍)	落水散布	

4. 中干し → 6月下旬～7月中旬まで行ないましょう！

- 1株当たり20本以上の有効莖数が確保でき、高温で晴天が続くときは中干しを実施しましょう。ただし、生育が遅れている場合や、平均気温が20℃を下回るような低温のときは中干しは見合わせましょう。
- 田面に軽く亀裂が入るまで行い、幼穂形成期（平年7月13日頃）までに終わらせるようにしましょう。

○中干しの効果○

- ①無効分けつの抑制 → 養分が消耗し、籾や穂の充実に影響が出ます
- ②土中の有害なガス抜きと酸素補給による根の活性化→秋落ち予防
- ③下位節間の伸長を抑えることによる倒伏防止
- ④チッソの肥効を抑制し稲の体を硬くする
- ⑤土が硬くなることによって稲刈りがスムーズ

5. 病害虫防除 → まずは草刈でカメムシの耕種的防除を！

(1) 斑点米カメムシ防除

草刈時期	7/20頃まで	イネ科雑草が開花・結実する前に刈り取る。
草刈中止時期	7/20頃～8/31頃	カメムシを水田に追いやることになりますので実施しない。



(2) いもち病

昨年、いもち病が大量発生した水田や毎年葉いもち病の発生する水田では、6月下旬にオリブライト粒剤で防除しましょう。